

医療安全川柳

医療安全推進週間の一環として「医療」「安全」を題材に募集した川柳をご紹介します

こえかけが あせるきもちを おだやかに
 おもいこみ それがじこへの おとしあな
 確認は 何度しても 損はしない N I C U
 立ち止まる その人本心に 同じ人? N I C U
 投与前 確認しよう 6 R N A 1 チーム
 指差呼称 必ず目で見ても 確認を A 2 ③
 「だつたはず」 あてにならない 思い込み A 2 ③
 いつもそう だから安心 それにダメ 石原
 守ろうよ 全ての人の 個人情報 K F 5 東 A 2 チーム
 報連相 コミュニケーション ほら大事 O T 5 東 A 2 チーム
 あわてるな たすけるいのち チームプレー 阪本千春
 あれはなに それはこれなのなんじゃこりゃ
 ありがとう 小さな気遣い 笑みころぶ 4 東 A チーム
 4 東 A チーム

スタッフの部

話そうよ パソコンよりか 目と耳で
 おだいに みんな願う 君の健康を
 みんな待つ 君と私の 笑顔をね
 悩み事 何でも話して すっきりだ
 まちじかん もっとせいかく おしえてよ
 やさしいね はくいのてんし いまもなお
 あのえがお あさいちみつけ ほっとする 下野美津子

一般の部

時間外・休日の 電話自動音声対応について

当院では、令和5年9月3日より夜間や土・日・祝日など診療時間外に病院代表電話(079-294-2251)へご連絡いただいた際の初期対応に、自動音声案内を導入しました。

自動音声案内の時間帯

平日時間外
17:00~翌8:00
 土日祝
終日

お電話をされる皆様方には大変ご不便をおかけしますが、皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いします。



さわやかライフ

姫路赤十字病院 広報誌

SawayakaLife

140
2023.9

Take Free
ご自由におとりください



ご感想をお聞かせ下さい。



広報誌「さわやかライフ140号」について、ご感想をお聞かせ下さい。



四季を撮る

最終回

長年お届けしました「四季を撮る」ですが、今号で最終回となります。西詰昌平さん 長きにわたりご寄稿いただき、ありがとうございました。

会計を 待たずに 帰れます!

姫路日赤アプリ
 HOPE LifeMark-コンシェルジュ

らくらく会計で 医療費あと払い
 診察の順番を スマホでお知らせ

※クレジットカード登録が必要です。

こちらからアプリをダウンロード

iOS App Store からダウンロード
 Android Google Play で手に入れよう

※本アプリは、タブレットには対応していません。
 ※AppleおよびAppleロゴは、Apple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
 ※Google Play およびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。

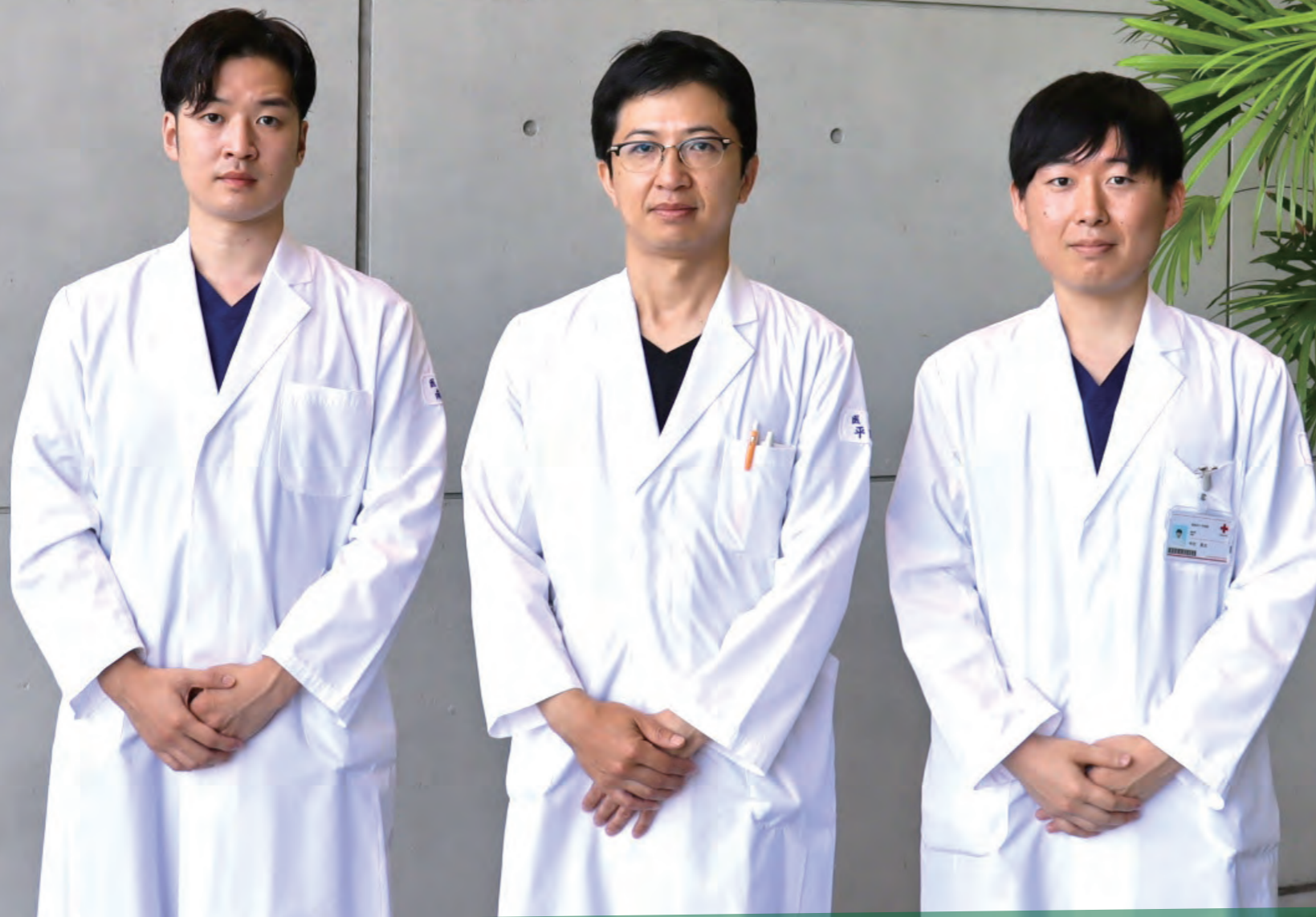
Contents

- 診療科のご紹介:眼科 02~03
- フローレンス・ナイチンゲール記章を受章 04
- 救護看護婦像へ献花 04
- がんについてもっと知ろう! 市民講座 05
- 健康増進講座(出前講座) 05
- 医療秘書の「さわやかさん」たち 06
- ふれあい看護体験・TQMキックオフ大会 07
- リハビリテーションだより 07
- 看護部だより 患者さんの生活を見据えた看護を 08
- 検査技術部だより 白血球の種類について 08
- 薬剤部だより 湿布によるかぶれの原因とは? 09
- 栄養課だより いつ、摂る? タイミングも大切です! 09
- 看護学校だより 地域の暮らしを知ることを目指して 10
- 相の会 10
- 合同救護訓練・院内防火訓練 11
- 医療安全川柳 12
- 四季を撮る 12

診療科の
ご紹介

眼科

様々な眼疾患、我々にお任せください!
～目の健康を守り、地域医療に貢献します!～



眼科

左から

みなかわ 南川 駿
専攻医

ひらの 平野 雅幸
眼科部長

いまむら 今村 勇太
専攻医

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚は人間の5感です。そのうち視覚から入る情報は、全体の80%以上を占めると言われています。それだけに、眼の機能の維持は非常に大切です。日赤眼科では網膜硝子体疾患と白内障の治療を主体として、様々な眼疾患の治療を積極的に行っています。

・網膜硝子体手術に対する硝子体手術：網膜（黄斑）は眼球内の膜状の神経組織です。硝子体という眼内のゼリー状組織と網膜の異常な相互作用は黄斑前膜や黄斑円孔などの網膜硝子体疾患を引き起こします。眼科では小切開システムを用いた硝子体手術で治療を行っています。低侵襲で安全な手術によって患者様の視力の早期回復が

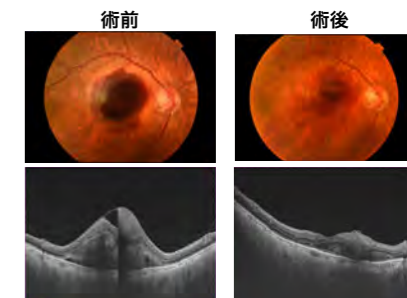
可能となります。増殖糖尿病網膜症などの難症例や網膜剥離などの緊急手術が必要な網膜硝子体疾患に対する治療も迅速に対応します。

- ・白内障治療：小切開手術治療を行っています。患者様の希望に合わせて入院治療、日帰り治療のどちらも可能です。多焦点眼内レンズを用いた白内障手術も行っています。
- ・緑内障治療：早期発見による点眼治療を基本としています。点眼治療の効果が不十分な場合、流出路再建手術や濾過手術などの緑内障手術も行っています。難治性緑内障に対するインプラントを用いた手術も行っています。

眼科部長 平野 雅幸

＜黄斑下血腫に対する硝子体手術＞

高齢化に伴い加齢黄斑変性や網膜細動脈瘤破裂によって引き起こされる黄斑下血腫の患者様が増えています。黄斑は網膜の中心に位置する最も重要な部位です。黄斑下に多量の血腫がある場合、黄斑毒性によって高度の視力障害が残る可能性があるため、血腫の移動が必要です。近年、組織プラスミノゲン活性化因子（tPA）を併用した血腫溶解移動術の有効性が報告されています。当科では倫理委員会の承認のもと、黄斑下血腫に対してtPAを用いた黄斑下血腫の移動術を行っています。この治療法によって血腫によって突出していた黄斑部は、正常に近い平坦な形状に改善します（図）。



図

●お仕事に関する相談会のご案内●

仕事を辞めると
決めてしまう前に
今できることは何か一緒に考えませんか？

完全予約制

お気軽に
お問合せ
ください

当院では次のような就労に関する相談会を実施しています。

ハローワークの
出張相談

- ・毎月第2火曜日
14:00～16:00
- ・完全予約制

社会保険労務士による
相談会

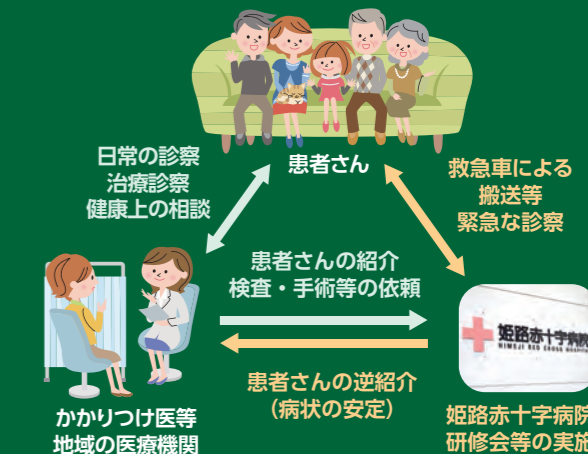
- ・毎月第4金曜日
13:30～17:00
- ・完全予約制

お問い合わせは

お電話または相談支援センター窓口へどうぞ
電話 079-294-2251(代表) 079-299-0037(直通)

＼ 姫路赤十字病院を受診される皆様へ /
かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医とは、日常的な健康管理や風邪をひいた時、あるいは体調などに不安を感じた時、慢性期の継続的な治療が必要な時にかかる診療所や医院の医師のことです。入院や専門的な治療が必要な時には、かかりつけ医からのFAX紹介で大きな病院にかかりましょう。



姫路赤十字病院は、「地域医療支援病院」です。

姫路赤十字病院 地域医療連携室

TEL : 079-294-2251 (代)

「第49回フローレンス・ナイチンゲール記章」を 当院の高原美貴 看護副部長が 受章しました

令和5年7月27日(木)に「第49回フローレンス・ナイチンゲール記章」の授与式が東京で行われ、当院職員の高原 美貴(たかはら みき)看護副部長が受章しました。姫路赤十字病院の看護師では昭和46年以来となる受章となりました。

フローレンス・ナイチンゲール記章は、傷病者の看護の向上に貢献し、ヒューマニティ(人道)の精神をもとに、近代看護の礎を築いた女史の偉大かつ崇高なる業績を永遠に記念し、看護活動に顕著な功績を果した者を顕彰することとされております。

高原看護副部長は、1999年にスーダン紛争犠牲者救援活動に携わって以来、これまでに11か国17回の国際救援活動を経験。また、日本各地で発生した災害でも多くの救護活動に従事、多年にわたる活動を行い、世界の多くの人々の生命と健康の保持増進に対し、チームリーダーや代表として組織運営に貢献した功績が認められ受章となりました。

現在、中東人道危機救援事業の保健コーディネーターとしてシリアに派遣され、約1年間にかけて活動を行っています。

授与式では、日本赤十字社名誉総裁である雅子皇后陛下より記章が贈られました。



姫路赤十字看護専門学校の学生によるキャンドルサービスの様子



雅子皇后陛下より授与



高原美貴 看護副部長



記念講演会の様子



救護看護婦像へ献花

当院では、毎年終戦の日に合わせて、第2次世界大戦中に日本赤十字社から戦地へ派遣され、殉職した救護看護婦らを追悼し、敷地内の救護看護婦像に献花と黙祷を捧げています。今年は台風7号の影響により院内での開催となりましたが、岡田院長が追悼の辞を述べた後、参列者全員で1分間の黙祷を捧げました。

犠牲を顧みず、過酷な戦場でおびたごしい傷病者を献身的に支えた先輩方に思いをはせました。

がんについてもっと知ろう！市民講座 がんの低侵襲治療について

当院では2008年から一般市民を対象に平日の昼間に病院内の多目的ホールで「がんについてもっと知ろう！」と題して市民講座を開催してきました。2020年から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、YouTubeを利用して継続してきましたが、2023年6月15日、PET・コミュニティ棟多目的ホールで再開しました。

「がんの低侵襲治療」として、中村副院長による「肝臓がんのマイクロ波熱凝固療法」、田尾呼吸器外科部長による「肺がんのロボット手術」、松本消化器センター長による「消化器がんのロボット手術」について2時間にわたる講演会となりました。

参加者からは「とても分かりやすかった。」「手術をまじかに控えている家族がいるのでとても勉強になった。」「安心感が増しました。」という声を頂きました。

今回は「がんの低侵襲治療」第2弾として、胃・食道がんの内視鏡的粘膜下剥離術、高精度放射線治療、肝臓がんのロボット支援手術について、10月26日(木)に開催予定です。たくさんのご参加をお待ちしております。 がん診療連携課 井上 豊子



←お申し込みはこちら
※会場の都合により先着40名まで。定員に達し次第、締切とさせていただきます。

「健康増進講座(出前講座)」を開始しました！

当院では、地域医療支援病院として地域の住民の方々に医療を身近に感じてもらい、疾病予防、健康増進に向けた医療の情報を提供するため、この度「健康増進講座(出前講座)」を開始しました。

自治会、企業、学校などに出向き、地域の皆さんに医療講座を開催します。

費用は頂戴しません。ご興味のある団体様はぜひ当院までご連絡頂ければと思います！



実際の講演会の様子(下手野自治会様)

対象	各種団体(自治会、老人会、婦人会、PTA等)、事業所を有する企業、学校等の10名以上の団体様(※政治・宗教又は営利目的とした会合はお受けできません。)
開催日時	原則、月曜日から金曜日の午前9時00分から午後5時00分まで(土曜日、日曜日、祝日、午後5時00分以降の開催については、別途ご相談下さい。)
会場について	会場は原則、姫路市、太子町、たつの市、宍粟市内とさせていただきます。
費用	講師料は無料です。
連絡先	姫路赤十字病院 総務課 079-294-2251



医療秘書の「さわやかさん」たち 献身的なサポートで医療に貢献!

医療秘書は現在45名在籍しており、医師事務作業補助者として、主に外来での電子カルテ代行入力業務と秘書室での診断書作成補助等を行っています。

医師の業務は多岐にわたり、限られた時間の中で医師に求められる作業内容の多さは計り知れませんが、その事務作業を代行して行うことで、医師の業務負担軽減に繋げ、医師が患者さんに向き合える時間を増やすことが出来るように、これからも日々業務に励んで参りたいと思います。

医療推進室 藪内 知美



医療秘書

医療秘書のお仕事

外来業務

医師の指示の下、検査予約オーダーや各同意書の発行、診療情報提供書の作成、入院や手術に伴う諸検査のスケジュールや書類作成等を行っています。医師や看護師、各部門スタッフとのコミュニケーションを密にとり、診療を円滑に執り行う事で患者さんの待ち時間短縮につながる事を目標としております。



秘書室

全科で提出された介護保険主治医意見書や訪問看護指示書、各保険会社の診断書や傷病手当金支給請求書、臨床調査個人票等の各書類を毎月1,000枚以上作成補助しています。また、その他にも他院からの紹介状のカルテ入力や、症例データの登録等、様々な仕事をしています。



ふれあい看護体験

7月24日、25日にふれあい看護体験を行いました。ふれあい看護体験は、看護師を目指す高校生たちが参加されます。看護師の仕事が診療の補助だけではなく、患者様が安心・安全に暮らせるよう支援すること、QOLを高める関わりが大切であることなどを具体的に伝えました。「がんのお話」「命の大切さ」「災害救護」について、緩和ケア認定看護師や助産師から伝え、沐浴や妊婦体験も行いました。「看護師に憧れてはいたけれど、ふれあい看護体験に参加して、看護師になりたい気持ちが強くなりました」と憧れが決意に変わったようです。
看護師長(教育担当) 松井 里美



TQMキックオフ大会

当院では2013年度より、TQM活動-Total「全体・全員で」・Quality「医療・ホスピタリティの質を」・Management「継続的に向上・改善する」-取り組みを行っています。実際の活動では、QC「Quality(品質)Control(管理)」と呼ばれる手法を用います。活動としては、各部門で「QCサークル」を作り、経験者が活動支援を行いながら、キックオフ大会、中間報告会を経て、年度末に活動報告会を開催します。今年度からは更なる進化を目指し『TQM推進室』を設置、改善活動の体制化を図っています。

2023年6月29日に第11回TQM活動キックオフ大会が開催され、今年度は7サークルの参加がありました。各々の改善したいテーマについて、患者さんのために良くしたい!という熱い想いを胸に、真剣に、時には笑いのある大会となり、有意義なスタートとなりました。

医療推進室 藤川 薫

リハビリテーションだより



運動器の障害のために移動能力の低下をきたした状態「ロコモティブシンドローム」を予防する運動「ロコトレ(ロコモーショントレーニング)」を紹介します。
自宅でも簡単にできるので、生活の一部に取り入れて健康寿命の延伸を目指しましょう。

●スクワット(股関節の運動)

身体の中で最も大きい筋肉を知っていますか? それは太ももの前にある大腿四頭筋です。そして2番目に大きい筋肉はお尻にある大殿筋です。全身の筋肉の6~7割が下半身に存在し、これらの筋肉を効率的に鍛えられる運動がスクワットです。歩く速度が遅くなった、躓きやすくなったと感じる方はぜひ毎日の運動に取り入れてみてください。

《方法》

- 1.両足を肩幅より少し広めに開いて立ち、つま先は外側に30度ずつ開きます。
- 2.膝がつま先より前にならない範囲で、お尻を後ろに引くように身体を下へと沈めます。
膝はつま先と同じ方向を向くようにし、大腿に力が入っていることを確認しながら行いましょう。膝の曲がり方は90度を超えないようにしましょう。
- 3.ゆっくりと(深呼吸に合わせて)身体を元に戻します。1から3の動作を5~6回繰り返します。これを1日3回繰り返します。楽にできる人は回数やセット数を増やしてかまいません。

「下肢筋力をつけるロコトレ「スクワット」



~健康長寿ネットホームページ (tyojyu.or.jp) ロコモ体操より引用~

難しい場合は、椅子に座り、机に両手をつけて立ち上がる、座ることを繰り返して行いましょう。

看護部だより

患者さんの生活を見据えた看護を

患者参画型チーム医療の中で、専門性を発揮し、患者の生活を見据えた医療・看護を提供する

7階東病棟 看護師長 大塚 有香子

7階東病棟は、泌尿器科部門 / 腎臓・膠原病・内分泌代謝部門です。入院目的は手術・抗癌剤治療・放射線治療・内視鏡治療など多岐に渡り、糖尿病疾患のため退院後も食事や薬剤管理が必要となる患者さんや、尿路変更術を受けられ退院後もストマ管理が必要となる患者さんが多く入院されます。

自部署には特定行為区分の栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連と血糖コントロールに係る薬剤投与関連の研修を修了した特定看護師も在籍しており、患者さんが退院後も日常生活を送りながら、血糖コントロールが継続できるように多職種で連携し取り組んでいます。またストマ管理に関しては、皮膚・排泄ケア認定看護師と連携し、患者さんやご家族の方が安心して退

院後もストマ管理ができるように取り組んでいます。入院時から多職種で連携を行い、退院後の生活を考慮しながら患者さんのセルフケア支援に力を入れて取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症が5類に変更になり、面会制限も緩和となりました。患者さんやご家族の方とのコミュニケーションを今まで以上に大切に頑張っていきたいと思っておりますので、何でも遠慮なくお伝えください。



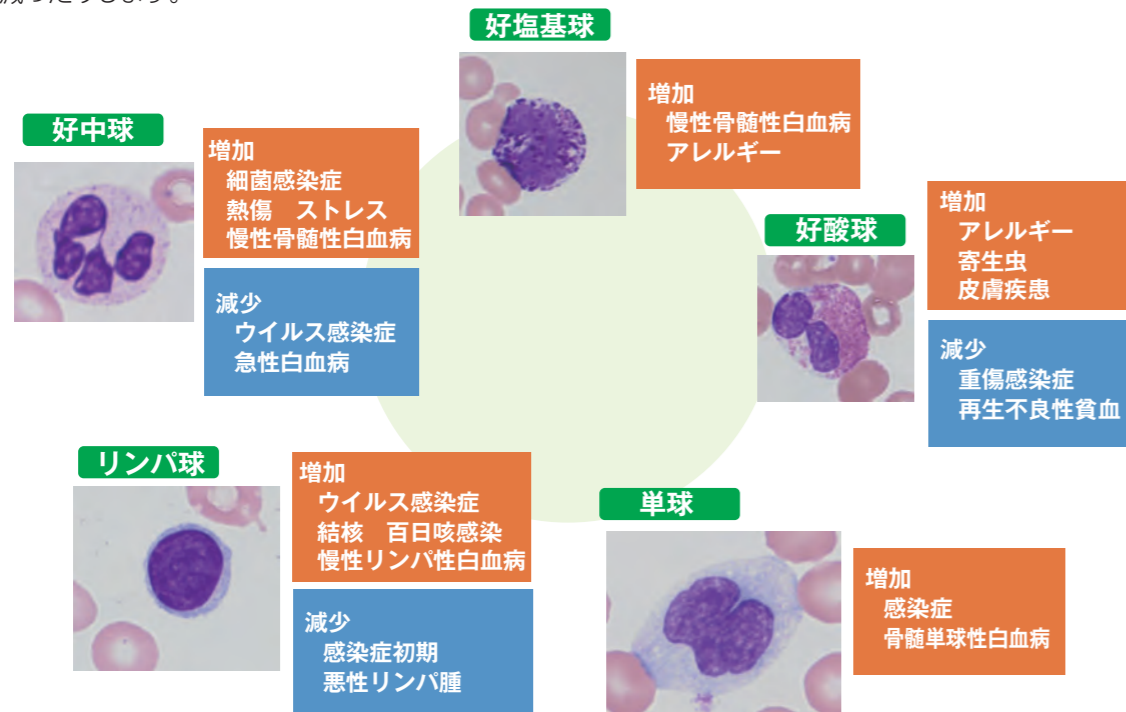
検査技術部だより

白血球の種類について

末梢血液像検査

検査技術部 副技師長 古川 恵子

血液は約55%の血漿といわれる液性成分と約45%の細胞成分つまり赤血球、白血球、血小板という血球からなります。末梢血液像検査は各血球の形態を顕微鏡で観察し分画や形態の異常の有無を調べる検査です。中でも白血球には好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球の5種類があり、病態によって増えたり減ったりします。



S
A
W
A
Y
A
K
A
D
A
Y
O
R
I

各部・各課のスタッフから健康や医療の情報について紹介します。

薬剤部だより

湿布によるかぶれの原因とは?

光線過敏症って?

薬剤部 玉田 智子

みなさんは湿布を貼ってかぶれたことはありませんか?

湿布の素材や薬が体に合わなくてかぶれることもあります。それ以外に、湿布を貼っただけではかぶれず、湿布を貼った後に紫外線(日光)に当たると起きる皮膚炎があり、これを「光線過敏症」と呼びます。赤くなったり痒みや腫れ、水ぶくれなどの症状がみられる副作用です。代表的なものは「ケトプロフェン」という成分を含む湿布によるもので、市販もされているため注意が必要です。

困ったことにこの副作用は、湿布を貼っているときだけ注意すればいいというわけではありません。薬の成分は、湿布を貼っている時だけでなく、はがした後も皮膚に残り続けるので、過去に貼付していた部位が紫外線に当たると症

状がみられる可能性があります。

湿布をはがした後も最低4週間は紫外線を通しにくい衣類やサポーターなどで紫外線が当たらないように覆うなど、しっかり紫外線対策を行いましょう。

正しく紫外線対策を行えば予防できる副作用ですので、面倒と思わずに用法を守って湿布を使用しましょう。



栄養課だより

いつ、摂る? タイミングも大切です!

身体づくりと食事の深～いはなし

栄養課 管理栄養士 岡田 真奈

まだまだ暑い日が続いていますが、朝晩はだんだんと涼しくなり、夏から秋への季節の移りを感じるようになってきました。秋といえば食欲、運動、読書など様々なものが連想されますよね。今回はその中でも運動と栄養に関連したお話をご紹介します。

運動に必要な栄養素って?

糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの5大栄養素をバランスよく取り入れることが大切です。たんぱく質の中でも、筋肉の合成や、分解の抑制をする「BCAA(バリン・ロイシン・イソロイシン)」というアミノ酸が多く含まれる食品を意識して摂り入れると、運動後の筋肉疲労や筋肉痛を軽減することができます。

- ★ BCAA を多く含む食品
- 卵、鶏肉、鮭、納豆、チーズなど



栄養を上手に取り入れて運動効果をUP!

運動したのに、すぐ疲れてしまったり、筋力が思うように上がらなかったりするとモチベーションも下がってしまいますよね。そんなときは、栄養摂取のタイミングも意識してみてください。運動後すぐに食事を準備するのは大変なこともあるので、家に手軽にたんぱく質、糖質を補給できる食品を常備しておくで安心ですね。

●運動前、運動後の食事のポイント

タイミング	摂取したい栄養素	効果
運動前	糖質(ご飯、パン等)を摂取する	運動中のエネルギー不足による筋肉の分解を抑制する。
運動後	糖質+たんぱく質をできるだけ早いタイミング(30分以内がゴールデンタイム)で摂取する	①運動によって枯渇したエネルギーを補給し、筋肉のたんぱく質が分解されることを防ぐ。 ②糖質を摂ることで血糖が上がり、インスリン分泌が促され、アミノ酸からのたんぱく質合成を増強させる酵素が活性化する。

看護学校だより

地域の暮らしを知ることを目指して

「地域の生活を知る」演習を終えて

姫路赤十字看護専門学校 専任教師 齊藤 千晶

地域・在宅看護論の科目のひとつである「地域の生活を知る」の演習を、5月23日から25日に行いました。この演習は、今年入学したクラスIの学生達が、地域の暮らしを知り、地域・在宅看護論の対象を理解することを目標としています。演習の訪問先は、姫路赤十字病院周辺の自治会、生活介護事業所、サービス付き高齢者向け住宅、ホームホスピス、デイサービス・ケア、地域包括支援センターでした。学生2～3人でそれぞれ訪問し、インタビューを通して学んだことをまとめ、クラス内で学びの共有をしました。共有の中で、「人と人が繋がりをもって生活している」「色々な年齢層に合わせた支援があり、地域の人々が支えられている」「人々が暮らす中で、地域との関わりが必要不可欠である」



などの意見があがり、地域の暮らしを理解することができました。この学びをこれからの学習に生かして欲しいと思います。

相の会 AINOKAI

相の会は、すべてのがん患者さんと家族が対象の患者会です。

「相の会」のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしてがんと共存する力を持ちましょう」と訴えかけた婦人科の患者さんの思いがはじまりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

がんサロン相の会 3年ぶりの対面開催!!

2023年6月がんサロン「相の会」は、PET・コミュニティ棟3階多目的ホールにて、3年ぶりの会場開催となりました。

2021年6月から行っていたオンラインもそのまま残して、オンラインと会場のハイブリッド形式としました。

オンラインの参加者と会場の参加者が上手く話し合えるか心配していましたが、音声も画像もうまく届き、話し合うことができました。

会場に集まった方々は、3年ぶりの再会を喜んだり、2年間オンラインでしか顔を合わせていなかったのが初めて直接お会いしたことを喜んだり、オンラインが苦手だったので会場での開催を待って初参加された方もいました。

オンラインだとお互いに発言する機会を待ってお見合いしているようなこともありましたが、会場では自然に会話がつながりました。

再開したばかりなので、まだ少ない人数で行っていますが、誰かと話したいと思われる方はぜひ参加して下さい。遠方の方はオンラインでも参加可能です。

オンラインでも会場でも和気あいあいと語り合える「相の会」です。

がん相談支援センター がん相談員 井上 豊子



「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251代)または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。

News of hospital

合同救護訓練

令和5年6月17日(土)、第27回赤十字(近畿)第4ブロック合同災害救護訓練が兵庫県支部主催の下、開催されました。

今回の会場は、兵庫県管内(災害救護支援センター、姫路日赤・多可日赤・兵庫県支部)での開催となり、豪雨のため兵庫県内で多くの氾濫危険箇所が発生し、近畿圏内だけでなく、隣接県の第5ブロック(徳島・岡山・鳥取)からも応援に救護班やコーディネーターチームが駆け付けました。

救護班は、本部の災害救護支援センターに参集後、活動を指示された各会場へ向かい、EMIS・衛星電話で到着報告を行い、被災状況について情報収集にあたり、想定された避難所でのアセスメント調査や傷病者の手当やこころのケアにあたりました。

また、災害診療録カルテからJ-Speedへの入力訓練を実施しました。最後にオンラインで各会場の入力内容を集計しスクリーンを通じて情報共有し反省会を実施しました。

今回の訓練で避難所の責任者である自治会長役を地元の自治会長等役員の方々に担って頂き、地元住民とも連携し災害時に備えた有意義な訓練となりました。

社会課 救護講習係長 岩井 良次



News of hospital

火災に備えて院内防火訓練を実施



病院内における火災発生に対応するための「防火訓練」を7月12日(水)に実施しました。

訓練では、勤務する職員の人数が最も少なくなる休日・夜間帯での火災を想定し、当直業務にあたる職員や、病棟からの応援による最小少人数での防火体制で、いかに迅速に消火活動や避難誘導が行えるかを実践に即した形で進められ、管理事務当直者が、全体の総指揮者役となって消火器や屋内散水栓の使用した初期消火活動の指示を行いました。

患者さんを安全に避難させるためには、火災が発生した出火階と煙が上がる可能性のある直上階の東西病棟が対象となるため、「消防計画」で割り当てられているそれぞれの担当病棟に避難誘導に向かい、ラップロールストレッチャーを使った担送搬送や、歩行可能な患者さんは独歩で非常出口から避難など職員が寄り添って安全に避難の誘導ができました。

また、今回の訓練では、院内の夜間にも在職する各協力会社職員の参加や、患者さん役として姫路赤十字看護専門学校の学生の協力もあり、約90名が参加した訓練となりました。

訓練終了後は安全衛生委員長から訓練の大切さを総評として頂きました。防火・防災管理者(社会課長) 大西 勝彦

